

基本目標別達成状況総括表

個別事業シート

基本目標 柱 ひとの創生 ①結婚、妊娠、子育てに関する切れ目のない支援

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)	
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財			
第3子以降3歳以上児保育料軽減事業	H29	安心して子どもを産み育てる環境づくりのため、扶養する子(満18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある者)が3人以上いる世帯の「第3子以降の3歳以上児」に係る保育料から2,500円を減額する。(平成27年度からの独自施策)	多子世帯については、子ども・子育て支援新制度の開始により、保育料の増額が見込まれることから、第3子以降3歳以上児の保育料を減額し、保護者の経済的負担を軽減した。 【H27実績/H28実績(H27実績との差)/H29実績(H28実績との差)】(H27開始) ○対象者 74人/52人(△22人)/49人(△3人) ○影響額 2,163,900円/1,484,100円(△679,800円)/1,392,500円(△91,600円)	【目的】 安心して子どもを産み育てる環境づくりのため、子育てをする多子世帯の保護者の経済的負担を軽減する。 【目標数値】	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実					0	—	【担当課意見】 国の保育料負担軽減の取組とともに、市独自の軽減措置を行うことにより、保護者の経済的負担の軽減につながっている。 【今後の見通し】 平成29年度における幼児教育の段階的無償化の取組とともに、引き続き実施する。	
第3子以降3歳未満児保育料無償化事業	H29	安心して子どもを産み育てる環境づくりのため、扶養する子(満18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある者)が3人以上いる世帯の「第3子以降の3歳未満児」に係る保育料を無料とする。(平成22年度からの独自施策)	対象となる児童の保育料を無料とし、多子世帯の保護者の経済的負担を軽減した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)】/H29実績(H28実績との差)】 ○対象者 62人/46人(△16人)/36人(△10人)/37人(+1人) ○影響額 15,088,000円/11,619,250円(△3,468,750円)/12,440,820円(821,570円)/12,042,740円(△398,080円)	【目的】 安心して子どもを産み育てる環境づくりのため、子育てをする多子世帯の保護者の経済的負担を軽減する。 【目標数値】	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実					0	—	【担当課意見】 国の保育料負担軽減の取組とともに、市独自の軽減措置を行うことにより、保護者の経済的負担の軽減につながっている。 【今後の見通し】 平成29年度における幼児教育の段階的無償化の取組とともに、引き続き実施する。	
放課後児童クラブ事業	H29	保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に小学校の余裕教室等を利用して適切な遊び及び生活の場を提供し児童の健全な育成を図る。 【対象児童】 小学校6年生まで 【実施箇所】 市内9校のうち8校区(7箇所)で実施。(直営5箇所、委託2箇所) 【定員】275人 【開設時間】 平日14:00~18:00、学校休業日8:00~18:00(日、祝、お盆、年末年始を除く) 【保護者負担金】児童一人当たり月額3,000円	利用児童数の増加に伴い竹原西放課後児童クラブ及び竹原放課後児童クラブにおいて2教室体制で受入れを行うとともに、東野放課後児童クラブを新設し市内8箇所10教室で放課後児童健全育成事業を実施した。また、支援員の資質の向上のため、支援員研修会を実施した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)】/H29実績(H28実績との差)】 ○利用者数 177人/209人(+33人)/243人(+34人)/262(+19人)	【目標】 保護者の就労支援と児童の健全育成を図るため、放課後児童健全育成事業を実施する。 【目標数値】(H31年度までに) 利用者数178人 (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	75,346,989		22,384,000	22,384,000	8,217,000	22,361,989	○	【担当課意見】 利用希望者の増加した地域においても、関係者と調整し受入環境を整備できたため、保護者の子育て・就労支援につながっている。 【今後の見通し】 支援員研修や利用ニーズの把握に努めながら、放課後児童クラブの充実に取り組み。
地域子育て支援拠点事業	H29	子育て中の親の孤独感や不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援するため、乳幼児とその保護者が気軽に集うことができる場を提供し、子育てについての相談・援助・関連情報の提供、子育てに関する講習等を行う。	ミルクハウス(市内各保育所及び公民館等で実施)、ゆりかご(竹原市中央児童館)、つくしんぼ(ふれあい館ひろしま)の3つの支援センターにおいて、子育てサークルの実施、絵本の読み聞かせ、子育て講演会、子育て相談などを実施した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)】/H29実績(H28実績との差)】 ○延べ利用者数 19,119人/20,793人(+1,674人)/17,893人(△2,900人)/17,522人(△371人) ○うち子どもの利用者数(月間) 853人/934人(+81人)/800人(△134人)/796人(△4人)	【目標】 子育ての悩みや不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援するため、子育て親子の交流を促進する。 【目標数値】(H31年度までに) 月間利用者数(子ども)1,250人 (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	23,737,000	7,912,000	7,912,000		7,913,000	○	【担当課意見】 子育ての悩みや不安感を緩和する事業を継続して実施することにより、子どもの健やかな育ちの支援につながっている。 【今後の見通し】 核家族化による子育ての孤立化等を防ぐため、引き続き、広報紙やkid'sめるまが等により子育てに関する情報発信を行い、利用促進を図る。	
ファミリーサポートセンター事業	H29	子育て家庭の多様なニーズに対応するため、乳幼児や小学生の預かり等の援助を受けたい者と援助を行いたい者との相互援助活動に関する連絡・調整を行い、地域における育児の相互援助活動を推進する。 【対象児童】小学校6年生まで 【利用時間等】平日7:00~19:00/1時間600円その他の曜日・時間/1時間あたり700円 ※利用料金の半額を市が助成(上限あり)	保育施設等への送迎や終了後の子どもの預かり等の相互援助活動の調整や、親子での交流会、協力会員のステップアップ講座等を実施した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)】/H29実績(H28実績との差)】 ○登録会員数 316人/338人(+22人)/361人(+23人)/375人(+14人) ○延べ活動件数 463件/1,589件(+1,126件)/1,707件(+118件)/1,828件(+121件)	【目標】 子育て家庭の多様なニーズに応えるため、登録会員の拡大を図り、利用しやすい提供体制を整える。 【目標数値】(H31年度までに) 登録会員数 420人	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	3,358,369	941,000	941,000		1,476,369	○	【担当課意見】 事業内容を周知に取り組み、会員数・活動回数が増加しており、子育て支援につながっている。 【今後の見通し】 利用しやすい提供体制を確保するため、事業内容の周知を図り、会員数の拡大に努める。	
一時預かり事業	H29	安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図るため、家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児を、認定こども園、保育所、地域子育て支援拠点等において、一時的に預かり、必要な保育を行う。	公立保育所(2箇所)・私立認定こども園(5箇所)・私立幼稚園(1箇所)・ふれあい館ひろしまの9箇所 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)】/H29実績(H28実績との差)】 ○延べ利用者数 3,102人/4,006人(+904人)/3,223人(△783人)/2,583人(△640人)	【目標】 保護者の一時的な保育ニーズに応えるため、預かり保育を実施する。 【目標数値】(H31年度までに) 延べ利用者数2,904人 (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	7,871,472	2,623,000	2,623,000		2,625,472	○	【担当課意見】 保護者の保育ニーズに適切に対応し、安心して子育てができる環境の充実につながっている。 【今後の見通し】 事業の周知を図るとともに、保護者の保育ニーズに応じた事業の充実に向けていく。	

基本目標別達成状況総括表

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財		
延長保育事業	H29	安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図るため、保護者の勤務条件や家庭の事情などにより、支給認定時間を超過し、引き続き保育所・認定こども園を利用する児童に対し、早朝・夕方の保育を実施する。 早朝 7:00～7:30 (3園) 夕方18:30～19:00 (全園) (保育短時間の場合は、利用時間以降)	市内すべての保育所及び認定こども園において延長保育を実施した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)/H29実績(H28実績との差)】 ○実利用者数 177人/209人(+33人)/245人(+36人)/250人(+5人)	【目標】 就労と子育ての両立を支援するため、保護者のニーズを踏まえ、保育所・こども園で延長保育を実施する。 【目標数値】(H31年度までに) 実利用者数140人 (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	2,400,000	800,000	800,000		800,000	○	【担当課意見】 保育所、こども園において受け入れ体制が整っており、必要性に応じ利用可能となっている。 【今後の見通し】 子育てと就労の両立を支援するため、継続して取り組む。
病後児保育事業	H29	保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに児童の健全な育成を図るため、病気の回復期であり、集団保育が困難な児童で、保護者が勤務等の都合により家庭での保育が困難な場合に、専用施設において、看護師等が一時的に保育を行う。 【実施場所】ふれあい館ひろしま「さくらんぼ」 【対象児童】小学校6年生まで 【定員】2名 【利用料】2,000円/日(市外2,600円)、1,500円/半日(市外2,000円)	病後児保育室「さくらんぼ」で病後児の受け入れを行うとともに、病後児保育室の利用の少ない日において、保育所等へ感染症流行状況や予防策等の情報提供を行った。また、保育所の保護者を対象に冬にかりやすい病気と感染予防についての健康講座を実施した。 【H26実績/H27実績(H26実績との差)/H28実績(H27実績との差)/H29実績(H28実績との差)】 ○延べ利用者数 236人/137人(△99人)/100人(△37人)/83人(△17人)	【目標】 保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに、児童の健全な育成を図るため、病後児保育を実施する。 【目標数値】(H31年度までに) 利用者数162人 病児については病院等への働きかけを進める (子ども・子育て支援事業計画)	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	5,249,330	1,693,000	1,693,000	329,446	1,533,884	○	【担当課意見】 利用希望に対してはば受入れすることができ、保護者の子育て・就労支援につながっている。 【今後の見通し】 保育所等への事業の周知を図るとともに感染症流行状況や予防策等の情報提供を行う。また広域利用連携を進める。
不妊治療費助成事業	H29	【概要】 不妊検査・一般不妊治療費及び特定不妊治療(体外受精及び顕微授精)について、費用の一部を助成することにより、不妊治療を希望するカップルの経済的負担の軽減と、子どもを産みやすい環境を確保し、子育て支援対策の充実を図る。	ホームページの掲載、チラシを保健センター・庁内等に配架するとともに西部東保健所などの関係機関と連携し、該当者及び申請を検討している市民に対して継続的に周知し、経済的負担を軽減し、子どもを産みやすい環境づくりに取組んだ。 【特定不妊治療】 【H28実績/H29実績(H28実績との差)】 助成件数 実 4人/3人(-1人) 延 6件/3件(-3人) 【不妊検査・一般不妊治療】 【H29実績】 助成件数 実1人 延1人	【目標】 様々な媒体を用いた情報発信により、不妊治療を希望するカップルの経済的負担を軽減し、子どもを産みやすい環境を構築する。 また、不妊検査・一般不妊治療費助成事業の開始に伴い、対象者の拡大を図る。	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	296,330				296,330	—	【担当課意見】 制度の周知が広がり、助成を受ける人が毎年みられている。検査及び治療費の一部を助成することで、不妊治療を受けるカップルの経済的な負担の軽減と、子どもを産みやすい環境の確保につながっている。 【今後の見通し】 不妊検査及び不妊治療を受けるカップルの経済的、精神的負担の軽減及び子どもを産みやすい環境の確保を図るため継続して実施する。
妊婦歯科健康診査事業	H29	【概要】 妊娠中からの妊婦とあかちゃんの歯の健康保持増進を図るため、妊娠中に一人1回、無料で歯科健康診査を実施し、子育て支援対策の充実を図る。 【内容】 妊娠届時に受診券を交付し、竹原市内の歯科医療機関において歯科健診を受診できる。	母子健康手帳の交付時に受診券を交付し、妊婦とあかちゃんの歯の健康の保持増進に取組んだ。 【H28実績/H29実績(H28実績との差)】 受診者数38人/36人(-2人) 妊娠届出数との受診率 25.6%/31.0%(+5.4%) 受診者所見 要治療50.0%、要指導19.4%。要治療の内訳 う歯、歯周疾患。	【目標】 妊婦の歯の健康保持増進を図るため、う歯の早期発見早期治療に努める。 【目標数値】 受診者40人	健康福祉課	第3章 健やかで支えあう安心のまちづくりへの挑戦 第1節 医療の充実と健康づくりの推進	チャレンジプロジェクト3 医療提供体制(産科、小児科、救急医療等)の充実	133,200				133,200	○	【担当課意見】 受診券を交付し、受診勧奨を行ったことにより、受診率が増加し、要治療者及び要指導者は医療機関において治療、指導を受け、妊婦とあかちゃんの歯の健康の保持増進につながった。 【今後の見通し】 妊婦とあかちゃんの歯の健康増進を図るため、継続して実施する。
乳幼児等医療費助成事業	H29	乳幼児・児童の疾病の早期発見と治療を促進し、健やかな育成を図るため、医療費の助成を実施している。	県の助成制度(就学前児童に関わる入院、通院時の自己負担額の一部助成)に加えて、市独自の施策として、助成の対象を拡大し、小学6年生修了時まで入院時の自己負担額の一部助成を行った。 【実績】 ・受給者数:1,872人(H29.3.31時点) :1,759人(H30.3.31時点) ・支給件数:28,297件(H28年度) :23,309件(H29年度)	【目標】 乳幼児・児童の疾病の早期発見と治療を促進し、健やかな育成を図る。	市民課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	39,611,044		8,809,000	0	30,802,044	—	【担当課意見】 県の助成対象(就学前児童)に加え、市独自の施策として、小学6年生修了時まで拡大して助成を実施している。 【今後の見通し】 継続実施していく。
妊婦・乳児健康診査事業	H29	【概要】 妊娠中からの妊婦の健康管理とあかちゃんの健やかな発育を支援するため妊婦又は乳児若しくは幼児に対する健康診査等の事業を実施することにより、子育て支援対策の充実を図る。 【主な事業】 ・妊婦健康診査に対する補助(14回分)及び乳児健康診査受診券2回分等で1人当り111,720円分の受診券を交付する。 ・妊婦健康診査1回受診につき2,000円(上限24,000円)の奨励金を交付する。	妊娠早期である母子健康手帳の交付時に受診券を交付し、受診を促し、妊婦とあかちゃんの健康の保持増進に取組んだ。 【H28実績/H29実績(H28実績との差)】 (H30.4.16現在) 妊婦健康診査交付枚数2,591枚/2,115枚(-476枚) 母子健康手帳交付者数 148人/116人(-32人) 補助券平均使用枚数 11.9枚/11.4枚 妊婦支援費支給件数 124件	【目的】 補助券の適正利用を促し、妊婦の健康管理とあかちゃんの健やかな発育を促進する。	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	16,043,874				16,043,874	—	【担当課意見】 妊婦の健康管理とあかちゃんの健やかな発育の支援に繋がった。 【今後の見通し】 妊婦とあかちゃんの健康の保持増進及び妊婦健康診査の受診を促進するため継続して実施する。
各種予防接種事業	H29	【概要】 伝染のおそれがある疾病の発生及びまん延を予防するために、予防接種法に基づき、定期予防接種を実施し、健康の保持・増進を図る。 【種類】ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ、麻疹、風しん、日本脳炎、BCG、ヒブ、肺炎球菌、水痘	対象者に対する指導・助言・個人通知等で接種勧奨を行い、乳幼児の健康の保持増進に取り組んだ。 【H29年度主な予防接種の実績(H28年度実績との差)】 麻疹風しん 97.3%(-0.7%) 肺炎球菌 101.2%(-0.8%) ヒブ 101.4%(-1.7%) ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ 103.9%(-6.3%)	【目標】 予防接種法に定められた定期予防接種を適正な時期に実施することにより、伝染のおそれがある疾病の発生・まん延を予防するとともに、小児の健康の保持・増進を図る。 【目標数値】 麻疹風しん接種率等90%以上	健康福祉課	第3章 健やかで支えあう安心のまちづくりへの挑戦 第1節 医療の充実と健康づくりの推進	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	26,980,200				26,980,200	○	【担当課意見】 接種勧奨に努めた結果、高い接種率を維持でき、疾病の発生予防及び子どもの健康の保持・増進につながっている。 【今後の見通し】 子どもの予防接種率を向上させるため、個人通知・個別指導等により接種勧奨を強化し、引き続き事業を推進していく。

基本目標別達成状況総括表

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財		
養育医療事業	H29	【概要】 出生時の体重が2,000g以下または身体の発育が未熟のまま出生し、養育医療を受ける必要のある子どもに対し、医療の給付を行い子どもの健康増進及び経済的負担の軽減を図る。	養育医療給付を行い、対象者の費用負担の軽減に努めた。 【H29年度実績(H28年度実績との差)】 実人員2人(-1人) 延人員5件(+2)	【目的】 出生時の体重が2,000g以下または身体の発育が未熟のまま出生し、養育医療を受ける必要のある乳児(指定医が認めた乳児)に対し、医療の給付を行い、対象児の健康の保持・増進及び経済的負担の軽減を図る。	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	701,189	252,284	121,511	45,390	282,004	—	【担当課意見】 対象者への養育医療給付を行ったことにより、対象児の健康増進及び医療費の経済的負担の軽減につながった。 【今後の見通し】 継続実施し、経済的負担の軽減及び子どもの健康増進の保持増進に取り組む。
子育て世代包括支援センター(ネウボラ)事業	H29	【概要】 妊娠期から子育て期にわたるまでの総合的相談支援を実施する。	医療機関や子育て支援関係機関との連携を図るとともに、成人式でリーフレットを配布し周知した。 【H28年度実績/H29年度実績(H28実績との差)】 母子健康手帳交付時の相談・支援148件/116件(-32件) 妊産婦訪問23件/29(+6件) 妊産婦相談71件/101(+30件) 電話相談260件/333(+73件) 支援計画の立案・実施0件/0件	【目的】 子育てしやすい町の醸成につながるとともに子どもの健やかな成長につながる。	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	2,179,889	726,000	726,000		727,889	—	【担当課意見】 リーフレットを配布し認知度向上に努めた結果、開設初年度と比較して市民の認知度が向上した。 【今後の見通し】 引き続き認知度の向上を図り、利用増進につなげる。また、支援ニーズの高い妊産婦は支援回数増加を図る等状況に応じた支援を行う。
妊婦健康診査支援事業	H29	【概要】 市内で妊婦健康診査事業を開始する病院に対し、施設整備及び運営補助を行う。	医療機関に対し、妊婦健康診査施設整備費の補助及び、妊婦健康診査運営費の補助をし、市は周知を図った。 【H29年度実績】 運営費 840,000円 受診者数 5人 延べ 25回	【目的】 市内で妊婦健康診査を受診できることで、妊婦等が遠隔地に赴くことなく、定期的及び随時的な妊婦健康診査を受診し、医師のアドバイスを受けることができる。これにより、積極的な健康管理に取り組むことで、妊婦等の健康増進及び福利厚生に資する。	健康福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	840,000	0	0	0	840,000	—	【担当課意見】 運営費の補助を医療機関に対して実施した。市は広報、チラシの配布等により、周知をはかった。 【今後の見通し】 継続して周知を図り、利用増進につなげる。
病児保育事業	H29	【概要】 保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに児童の健全な育成を図るため、病気の治療中であり保護者が勤務等の都合により家庭での保育が困難な場合に、専用施設において、看護師等が一時的に保育を行う。	米田小児科医院に開設した病児保育室「ポビー」で病気の回復期に至っていない児童の受入れを行うとともに、保育所等へ感染症流行状況や予防策等の情報提供を行った。 【H29実績】 ○延べ利用者数52人	【目的】 安心して子育てのできる環境を整備するため、新たに病児保育室を設置する者に対し、施設改修等の必要な補助を行う。	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	3,336,141	1,119,000	1,119,000	252,472	845,669	—	【担当課意見】 病児・病後児保育を実施することにより、子育て環境の充実につながっている。 【今後の見通し】 引き続き、利用方法等の周知を図る。
吉名放課後児童クラブ整備事業	H29	【概要】 平成30年4月開校予定の小中一貫校整備に伴い、放課後児童クラブ利用者を受け入れるため、同校敷地内に新しく児童クラブ室を設置する。	児童クラブ建設工事 ・事業期間 平成28年度～平成29年度 ・構造等 木造平屋建 ・定員 40名	【目的】 小中一貫校整備に伴い放課後児童クラブ利用者を受け入れるため、同校敷地内に新しく児童クラブ室を設置する。	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	9,488,328	6,375,000	1,593,000	1,200,000	320,328	—	【担当課意見】 平成30年4月開設に向けて予定通り工事を完了し、環境整備を行った。 【今後の見通し】 引き続き、子どもが安心して過ごせる場として、安全面に配慮しながら子どもの健全な育成に努める。
東野放課後児童クラブ運営事業	H29	【概要】 2小学校区で合同開設している放課後児童クラブにおいて、利用児童の増加が見込まれるため、東野小学校区に放課後児童クラブを開設する。	地元運営委員会へ運営委託し、放課後児童健全育成事業を実施した。 【H29実績】 ○利用者数 14人	【目的】 保護者の就労支援と児童の健全育成を図るため、利用児童数の増加が見込まれる東野小学校区に児童クラブを新設する。	社会福祉課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第1節 子育て環境の充実	チャレンジプロジェクト1 ・子育て環境(産科、小児医療、保育サービス等)の確保・充実	5,376,589	1,065,000	1,065,000	615,000	2,631,589	—	【担当課意見】 地域の関係者と協議し受入環境を整備できたため、保護者の子育て・就労支援につながっている。 【今後の見通し】 利用ニーズの把握に努めながら継続して実施する。

基本目標別達成状況総括表

個別事業シート

基本目標 ②学校教育の充実
柱 ひとの創生

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあつたの担当課意見等)	
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財			
学校ICT活用教育推進事業	H29	市内小中学校全校にタブレット型端末や授業・学習支援ソフトウェア等を導入し、電子黒板との連携によって、充実したICT活用教育環境の整備を行うものである。 また、市内小中学校にICT支援員を配置し、教員及び児童生徒のICT機器の活用・操作方法の習得の支援を行う。 これらの取組により、児童生徒の情報活用能力育成及び学力の定着向上を目指すものである。	・平成27年度に導入したタブレット型端末を活用した授業の定着と発展を図り、メディアセンターの導入やプログラミング教育の一部実施など、新しい取組にも繋がった。 ・ICT支援員2名を担当校制により配置し、事業期間合計で156日のICTに係る支援を実施した。また、タブレット型端末を活用した授業は、平成28年度調査で、調査期間10日間で小学校388時間、中学校124時間実施した。(平成27年度調査小学校361時間、中学校59時間実施。) 【H27実績/H28実績/H29実績(H27実績との差)】 ○ICT活用授業 週23時間/週28時間/週37時間(+14時間) ○市内中学校進学率 88.5%/90.6%/90.6%(+2.1%) ○HPを活用したPRの回数 6件/15件/15件(+9件) ○公開研究会回数 1件/1件/1件	【目標】 市内小中学校全校に整備されたタブレット型端末を電子黒板等と連携し、授業・学習支援ソフトウェア等の活用により児童生徒の学力向上を図る。 【目標数値】(H31年度までに) ・ICT活用授業各校週10時間以上 ・市内中学校への進学率93%以上 ・HP等を活用したPR10件以上 ・公開研究会年1回	学校教育課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第2節 学校教育の充実	チャレンジプロジェクト1 将来地域で活躍できる人材を育成する教育環境の確保・充実	21,276,432					21,276,432	△	【担当課意見】 すべての学校において、公開研究会でタブレット型端末を活用した授業実践を行われるなど、タブレット型端末の活用が定着し、授業支援システムや電子黒板との連携によって、質の高いICTを活用した教育が図られている。 また、ICT支援担当員を配置したことにより、教員及び児童生徒のICT機器の操作方法の習得が進み、活用場面が広がった。さらに、H32年度から必修科目となるプログラミング教育の実践を全小学校で行うなど新分野の活用に取り組んだ。住民のアンケート調査では、認知度の低さが指定されていたため、積極的に広報活動を行うなど、ICT活用教育推進の取組や成果について認知度あげる取組により、総務省をはじめ多くの自治体から視察があつた。 今後も、各校の学校だよりや教育研究会、市の広報や「特色ある学校づくり報告会」等の場を通して、取組の内容や成果を広報していく。 【今後の見通し】 小学校段階でのプログラミング教育の全校実施など、新しい取組も始まり、タブレット型端末を含めたICT機器を活用した更なる授業機会の増加が見込まれる。 一方で、ICT支援員事業が終了するなど、行政としての学校のサポートに不足が生じるため、より自立的な教員の指導力向上に向けた研修等の対応を充実させ
外国語指導助手配置事業	H29	児童生徒の英語力向上と国際理解の深化及び教職員の英語指導における資質向上を図る。 ALT(外国語指導助手)を雇用し、小学校の外国語活動又は中学校の英語科の授業をチームティーチングで行う。	・市内幼稚園1園、小学校9校、中学校4校にALT(外国語指導助手)を4名配置し、児童生徒の英語力とコミュニケーション能力の向上や国際理解の充実を図った。 ・ALTとのチームティーチングを行うことを通じて、小・中学校の外国語活動および英語教育の教員の指導力向上を推進した。	【目標】 ALTとのチームティーチングにより授業改善が図られ、教職員の指導力が向上し、児童生徒の英語力が向上する。	学校教育課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第2節 学校教育の充実	チャレンジプロジェクト1 将来地域で活躍できる人材を育成する教育環境の確保・充実	16,305,453					16,305,453	—	【担当課意見】 ALTとのチームティーチングで授業を行うことにより、アンケート調査で「外国人とコミュニケーションを図りたい」と答えた児童が75.9%、生徒が69.1%と、いずれも昨年度を上回るなど、児童生徒のコミュニケーション力や英語力の向上につながった。また、指導する日本人教師が、クラスルーム・イングリッシュを使った授業を行ったり、ねらいに効果的に迫る活動を設定したりするなど、授業構成に工夫が見られるようになり、教員の指導力の向上につながった。 【今後の見通し】 ALT及び市内小中学校の外国語教育推進リーダーを対象とした研修会を開催し、外国語教育指導力の向上を図り、児童生徒の英語力向上と国際理解の一層の充実を進める。 また、毎月末、ALTと教育委員会との連携の時間を確保し、ALTの指導力向上を進める。 ※クラスルームイングリッシュ・・・教師の掛け声やあいさつ、指示など、授業中に使われる英語
竹原市キャリア・スタート・ウィーク事業	H29	竹原市立中学校第2学年の生徒が市内の事業所で職場体験をすることを通して、望ましい勤労観、職業観の育成を図るとともに郷土愛を育むものである。	・市内約110の事業所において中学2年生190名が職場体験学習を行った。	【目標】 職場体験を通して、竹原市立中学校第2学年の生徒に望ましい勤労観、職業観が育成される。	学校教育課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第2節 学校教育の充実	チャレンジプロジェクト1 将来地域で活躍できる人材を育成する教育環境の確保・充実	40,000					40,000	—	【担当課意見】 職場体験活動を実施したことにより、生徒の勤労観・職業観の育成が図られ、事後アンケートでは「働くことの意義について考えた(92%)、働いている人は仕事を通して世の中の役に立っていると思う(93%)と答えるなど、働くことについての考えを深めるとともに、進路意識・目的意識が高まったと考えられる。 また、「私は自分が住んでいる町が好き」と答えた生徒が89%であり、生徒の郷土愛を醸成することもできたと考えられる。 【今後の見通し】 小学校から中学校のキャリア教育の系統性を明確にするとともに、中学校での職場体験活動の事前・事後指導の更なる充実を図る。
未来の人材育成事業	H29	○竹原英語チャレンジ 小学校第5・6学年及び中学校第1学年生徒を対象に、英語力(リスニング、スピーキング)を問うテストを行い、英語によるコミュニケーション能力を見取り、英語への興味関心を高め、英検へ向けた動機付けとする。 ○イングリッシュキャンプ 8月に対象学年30名で、せらに青少年旅行村において1泊2日のイングリッシュキャンプを行った。事後アンケートでは、「英語を使って話したり、活動するのは楽しかった」「もっと英語を勉強したい」「学校の英語の授業が楽しくなった」など肯定的に捉えた参加者が多かった。 ○イングリッシュキャンプ 市内の小学生5年生から中学3年生(約30名)を集め、1泊2日の日程で、身に付けた英語力を生活の中で活用することを目的とした、イングリッシュキャンプ(英語だけの生活)を実施する。英語を身近な言語にするとともに、英語に対する興味関心を持たせ、さらに自身の英語力を高めようとする態度を育てる。	○竹原英語チャレンジ 1月に対象とする児童生徒にテストを行った。各学年の正答率は小学校第5学年96%、第6学年92%中学校第1学年88%であった。 ○イングリッシュキャンプ 8月に対象学年30名で、せらに青少年旅行村において1泊2日のイングリッシュキャンプを行った。事後アンケートでは、「英語を使って話したり、活動するのは楽しかった」「もっと英語を勉強したい」「学校の英語の授業が楽しくなった」など肯定的に捉えた参加者が多かった。 【H29実績/目標値(目標値との差)】 ○英語検定3級取得率 26.9%/30%(-3.1%) ○コミュニケーションを図りたい割合 小5 77.2%/85%(-7.8%) 中2 69.5%/75%(-5.5%) ○竹原英語チャレンジの通過率 小5 98%/90%(+6%) 小6 92%/90%(+2%) 中1 88%/90%(-2%)	【目標】 児童生徒の英語力を育成することで、グローバル化社会で活躍できる人材を育成する。 【目標数値】 ①英語検定3級(中学校卒業程度)取得率30%以上 ②外国人とコミュニケーションを図りたいと答える割合(小5・中2)【6月】小:85%以上、中:75%以上 ③竹原英語チャレンジの通過率それぞれの学年90%以上【1月】	学校教育課	第1章 子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦 第2節 学校教育の充実	チャレンジプロジェクト1 将来地域で活躍できる人材を育成する教育環境の確保・充実	552,000					552,000	△	【担当課意見】 イングリッシュキャンプにおいては、市内のALT4名及び県内の留学生13名が参加し、英語を活用したアクティビティーや調理体験等を通して、英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに、英語や異文化に対する興味関心を高めることができた。 英語チャレンジでは、授業で学習した内容を基に作成したテストを実施した。児童生徒は基礎的な英語の聞く力や話す力が身につけていることを実感できた。 【今後の見通し】 イングリッシュキャンプにおいては、小学校、中学校の発達段階に応じたプログラムを設定し、児童生徒が自身の基礎的な英語の聞く力、話す力を実感するとともに英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

基本目標別達成状況総括表

個別事業シート

基本目標 柱 ひとの創生 ③観光の振興

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財		
伝統的建造物群保存地区保存修理・修景事業	H29	竹原市竹原地区伝統的建造物群保存地区を保存するため、保存地区内における建造物等の修理・修景を実施する。	保存修理事業1件(大澤家住宅) 修景事業2件(磯辺家住宅、市原家住宅)	【目標】 重要伝統的建造物群保存地区内建造物等の保存 【目標数値】	文化生涯学習課	第4章竹原のもつ住みよい環境づくりへの挑戦 第1節歴史文化の保存・継承・活用	チャレンジプロジェクト4 町並み保存地区の更なる活用・魅力づくり	18,104,060	9,050,000	2,250,000	0	6,804,060	—	【担当課意見】 平成29年度事業として2件の修理・修景事業を実施した事により、対象家屋の修理ができたことに加え、平成28年度からの繰越事業として、火災により被害を受けた住宅1件の修景を実施し、保存地区内の景観を向上させた。 【今後の見通し】 平成30年度は2件実施することとしており、今後も計画的に実施する。
文化財管理事業	H29	・文化財の維持管理及び文化4施設:森川邸・松阪邸・光本邸・歴史民俗資料館の指定管理者により管理する。 ・吉井家住宅管理及びその他文化財を管理する。	・指定文化財管理および整備委託 ・文化施設管理委託 ・庭木管理業務委託 ・町並み保存地区内の白蟻駆除委託 【H28実績/H29実績(H28実績との差)】 57,222人/47,952人(△9,270人)	【目標】 文化財及び文化施設の適切な管理を行う。 【目標数値】 市公開重要文化財利用者年間31,000人以上	文化生涯学習課	第4章 竹原のもつ住みよい環境づくりへの挑戦 第1節 歴史文化の保存・継承・活用	チャレンジプロジェクト4 町並み保存地区の更なる活用・魅力づくり	13,717,786	0	0	0	13,717,786	○	【担当課意見】 吉井家住宅の調査結果を受けて、文化財指定について検討を行ったほか、文化財及び文化施設の文化施設の適正な管理及び活用について検討した。 【今後の見通し】 今後は吉井家住宅の文化財指定に取り組むとともに、文化財及び文化施設の整備・活用について検討する。また、文化財の修繕等については有識者の意見を参考に、文化施設の管理については利用状況を把握しながら事業を進めて行く。
地域活性化イベント事業	H29	竹原の自然や歴史文化を感じることのできる機会を観光客に提供すること等を目的に、桜まつり(4月)、竹まつり(5月)、夏まつり(8月)、憧憬の路(10月)、町並み鑑めぐり(2~3月)を開催する。	桜まつり(4月)竹まつり(5月)、夏まつり(8月)、憧憬の路(10月)、町並み鑑めぐり(2~3月)を開催した。 (平成29年度来場者数) ○桜まつり 17,000人(前年比+2,000人) ○竹まつり 13,200人(前年比△8,800人) ○憧憬の路 23,000人(前年比△7,000人) ○町並み鑑めぐり 不明	【目標】 各種イベントを通じて竹原の自然や歴史文化を感じることのできる機会を観光客に提供する。 【目標数値】	産業振興課	第2章 人が集まる元気なまちづくりへの挑戦 第4節 観光の振興	チャレンジプロジェクト2 地域資源を活かした更なる観光振興	5,150,000				5,150,000	—	【担当課意見】 憧憬の路は両日雨天のため来場者が大きく減少した。竹まつりの来場者減少の原因は不明。一方で桜まつりは、過去最高の来場者数となった。 【今後の見通し】 イベント内容を見直し、入込観光客の増加につなげる。
民間事業者等のノウハウを活用した誘客強化事業	H29	新たな誘客及び相互周遊を促進するため、東広島・呉自動車道を活用した沿線市との連携事業を実施する。	東広島・呉自動車道の沿線市と連携し、お酒をテーマに3市を周遊させるためのストーリー作りやプロモーションを実施。また、シャトルバスの実証運行やモニターツアーの実施。 ○パンフレットの作成 東呉道路を活用したドライブパンフレット作成 ○周遊バスツアー 関西圏在住者を対象とした酒蔵巡りバスツアーを5回企画し、うち2回実施 参加者24人 ○レンタカーを活用したモデルコース (株)日本旅行とタイアップし、レンタカーを使った周遊モデルコースを造成 ○日本酒魅力体験イベント 憧憬の路開催時に森川邸で3市の日本酒飲み比べを実施 ○広島市内でのイベントに出展 旧広島市民球場跡地で開催された「せとうち旅グセフェスタ」に3市で出展し日本酒をはじめとした魅力をPRした。	【目標】 東広島・呉自動車道沿線における広域的な周遊観光を促進する。 【目標数値】	産業振興課	第2章 人が集まる元気なまちづくりへの挑戦 第4節 観光の振興	チャレンジプロジェクト2 地域資源を活かした更なる観光振興	2,000,000		1,000,000		1,000,000	—	【担当課意見】 過去2年間は民間事業者への委託事業が大半だったが、H29は関係市で現場へ出向くなどして来場者の意見をしっかりと聞き取りした。また、集客力のある高速道路サービスエリアにパンフレットを配布し、効果的な情報発信を行った。 【今後の見通し】 バスでの周遊ツアーは集客数が伸びなかったことから、広島空港付近のレンタカーを活用した周遊観光商品を作成する。 【その他特記事項】 県事業(参画市:竹原市、東広島市、呉市)
道の駅管理事業	H29	道路の利用者に対し良好な休憩場所を提供し、観光情報を含む地域情報の発信及び地元産品の販売による地域の活性化に寄与するとともに、地域の防災拠点として市民の福祉の向上を図ることを目的に道の駅たけはらの管理運営を行う。	平成29年度においては、地域情報の発信、地元産品の販売など通常の指定管理業務に加え、月1回の自主事業を実施した。	【目標】 道路の利用者に対し良好な休憩場所を提供し、地域情報の発信及び地元産品の販売による地域の活性化に寄与するとともに、地域の防災拠点として市民の福祉の向上を図る。 【目標数値】	産業振興課	第2章 人が集まる元気なまちづくりへの挑戦 第4節 観光の振興	チャレンジプロジェクト2 地域資源を活かした更なる観光振興	16,452,709				16,452,709	—	【担当課意見】 H29は指定管理者内で人事異動が頻繁に行われ引継ぎが円滑に行われなかったこと、年度初めに酒類販売許可の問題により一定期間酒類の販売ができなかったことなどにより、売上額は減少した。 【今後の見通し】 ○農産物や加工品、レストラン業務など全体としての売上向上を目指す。 ○指定管理者の事業経費の見直し

基本目標別達成状況総括表

個別事業シート

基本目標 柱 ひとの創生 ④情報発信力の強化

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)	
						該当する章・節	チャレンジプロジェクト		国	県	その他	一財			
広報事業	H29	公正で開かれた市政を推進するとともに、市民の市政に対する理解やまちづくりへの意識啓発を図り、本市等が行う各施策の効果を更に高めるため、広報紙並びにホームページやツイッター・フェイスブックなど様々な媒体での効果的な情報発信を行う。	月に1回、広報紙(12,000部/月)を自治会加入者へ各戸配布し、自治会未加入世帯も広報紙を手に入れることができるように市庁舎や支所・出張所、道の駅やJR竹原駅など市内施設へ設置している。 また、ホームページやツイッター・フェイスブックなど様々な媒体も活用し、随時情報を更新・発信した。 【H27実績/H28実績(H27実績との差)】/H29実績(H28実績との差) ○報道件数 61件(+6件)/68件(+7件)/88件(+20件) ○HP年間アクセス数 342,041件/250,121件(-91,921件)/216,726件(-33,395件) ○フェイスブック「いいね」件数 1,679件/1,957件(+278件)/2,130件(+173件) ○ツイッター「フォロワー」数 3,495件/4,165件(+670件)/4,463件(+298件)	【目標】 様々な媒体を活用した情報発信を行うことで、市の施策や事業等を周知し、各種施策の効果を高める。 【目標数値】(H31年度までに) 報道件数 80件 HPアクセス数 300,000件/年 フェイスブックいいね数 1,800件 ツイッターフォロワー数 4,200件	企画政策課	5章 安全でしっかりとした都市基盤づくりへの挑戦 第6節 情報通信基盤の整備・活用 第6章 みんなで築くまちづくりへの挑戦 第3節 計画的で効率的な開かれた行財政運営の推進 第4節 広域的な交流・連携の推進		7,345,731					7,345,731	△	【担当課意見】 定期的に発行する広報紙に加え、ホームページ等の各種媒体などで最新情報を随時発信した結果、いいね数、フォロワー数等は概ね増加している。HPアクセス件数については、マッサンやたまゆらの終了のほか、閲覧者の分析(google analytics)によると、18歳~34歳が60%以上を占めることから、市民の高齢化による減少も考えられる。 【今後の見通し】 今後についても各事業担当部署と連携しながら、様々な媒体を活用し、市民ニーズに合う情報発信ができるよう取り組む。また、HPについては、市民がより興味を持ってもらえるよう、子育て情報、行政情報や各種観光イベントなどを掲載する。
職員出前講座事業	H29	公正で開かれた市政を推進していくため、また、市民の市政に対する理解を深め、まちづくりへの意識啓発を図るとともに、市民の要望及び意見を幅広く市政に反映させ、市民と行政との協働によるまちづくりを推進するため、市が行っている事業等について、市民等が構成する団体から申請があった場合、集会、学習会等に市職員を派遣し、説明及び懇談会を行う。	4月に出前講座メニューの見直しを行い、広報5月号及び市ホームページで今年度出前講座メニューを発信し、申請のあったものについて説明会等を実施した。 【H27実績/H28実績(H27実績との差)】/H29実績(H28実績との差) ○出前講座実施件数 55件(+18)/68件(+13)/26件(▲42) ※H27はマイナンバー説明会を含む。 ※H28はごみの出し方分別(ごみ袋有料化)についてを含む。	【目標】 出前講座等の説明会で直に市民へ施策等の説明を行うことで、市民の市政に対する理解を深め、市民の協働のまちづくりへの意識を高める。 【目標数値】	企画政策課	第6章 みんなで築くまちづくりへの挑戦 第3節 計画的で効率的な開かれた行財政運営の推進		0					0	—	【担当課意見】 H28に一時的に増加したごみの分別等に関する出前講座の依頼が落ち着き、減少した。健康や介護予防、消費生活など市民の生活に直結するテーマの講座への依頼が多くなっているが、一定には市民の市政に対する理解を深めることにつながっていると考える。 【今後の見通し】 今後についても、各事業担当部署と連携しながら、説明会等の積極的な実施に努める。また、平成30年度は竹原市の空き家等対策や広島版『学びの変革』アクションプランについてのメニューを加えており、新しい施策や方針についても理解を深める機会を提供していく。